第75回日本酪農研究会 開催のご報告

雪印メグミルク株式会社　酪農部酪農グループ（扱：酪青研事務局）

日本酪農青年研究連盟（酪青研：檜尾康知委員長）主催の第75回日本酪農研究会が、11月13日に全国各地より会員および関係者約320名（当社人事部聴講生11名を含む）参加の下、札幌市の「プレミアホテルTSUBAKI札幌」にて盛大に開催されました。来賓には農林水産省や北海道庁をはじめとする行政機関、農業団体および当社グループ役員各位のご臨席を賜りました。

開会式の冒頭、檜尾委員長は、「令和の酪農危機といわれる慢性的な円安基調や、国際情勢の影響による穀物・資材価格の高騰の影響が、私たちの酪農経営に重くのしかかっている。これまで各種政策支援や段階的な乳価改定などにより酪農経営は徐々に改善の兆しがあるものの、コロナ禍をきっかけに弱体化した酪農の現状を拭い去るには至らない状況にある。」とした中で、「経済情勢はコロナ禍からの脱却が進み、緩やかな回復基調にある。国内の酪農家に対して生産基盤の維持・強化とともに安全・安心な牛乳・乳製品の安定供給が求められている」と期待感を述べられました。

また本年６月に改正された食料・農業・農村基本法にも触れ、「この法律は国民一人ひとりの食料安全保障を基本理念の中心に据え、環境負荷を低減しつつ持続可能な食料システムを構築することが謳われている。我が国の酪農基幹食料である牛乳乳製品の供給のみならず、地域社会や環境保全にも多くの役割を担っており、今こそその重要性を再確認し、酪青研が一体となって持続可能な産業の構築に向けて取り組まなくてはならない。」と酪青研活動の重要性について強調されました。

続いて、当社グループを代表して石井副社長は、酪農乳業を取り巻く厳しい環境において、特に世界的な人口増加に伴う、たんぱく質需要の急速な高まりと供給不足に陥る懸念を示されるとともに、「牛乳・乳製品を消費者の皆様に安定的にお届けするためには、国内の酪農生産基盤を強化することが不可欠であるとともに、当社グループが生乳の価値向上に努め、魅力ある牛乳・乳製品の提供を通じ、酪農乳業の産業基盤を守ることが責務である。」と話されました。

また、当社グループが2025年に100周年を迎えるにあたり石井副社長は、「私どもは創業以来、『健土健民』の精神を受け継ぎ、酪農生産者の皆様に生産して頂いた貴重な生乳を消費者の皆さまにお届けするなかで、当社ならではの強固なミルクバリューチェーンすなわち、乳で培われた知見や機能を構築してきた。今後もこのミルクバリューチェーンをより一層発展させ、全国の酪農生産者の方々と手を携えながら、食の持続性の実現に向けて取り組んで参りたい。」と決意を述べられました。

研究会では、全国から選抜された酪農家６名の経営発表と５名の意見・事例発表があり、経営発表の部においては、「Good cows made from good grass」と題して釧路地方連盟の大宮睦美さんが最優秀賞（黒澤賞）に輝きました。大宮さんは、2017年に第三者継承で就農し、経産牛57頭、育成牛30頭で経営をスタート。その後自給飼料生産を重視し、飼料用トウモロコシを軸とした生産体系を実践するとともに、牛のボディコンディションスコアの調査とその結果を基に行なう飼料設計のほか、飼養管理環境の改善による繁殖成績の向上に努められており、我が国の酪農経営の発展にとって模範となる取組み成果が高い評価を受けました。

また、意見・事例発表の部では北海道から九州までの若手酪農の経営者による将来に向けての夢や目標が披露されました。

発表会後の講演会では、北海道江別市の「とわの森三愛高等学校」の生徒の皆さんによる、農業への想いを綴った意見発表と日頃の学校生活での取り組みについての紹介のほか、酪青研顧問の太田真樹夫氏による「70年前の酪農青年が画いた夢、そして今」と題しての、酪青研に対する想いや激励のお言葉を頂きました。

昨今の我が国の酪農環境は、長引く資材費や燃料費の高騰と円安基調の影響等により厳しい状況にありますが、今回の大会は全国の酪農家の皆さんが各々の地域実態に合わせて様々な工夫を行い、自らの経営に力強く取り組む意識や情熱を強く感じることのできた貴重な機会となりました。

「持続可能な産業の構築を！」
挨拶する檜尾委員長

「食の持続性の実現に向けて！」
挨拶する雪印メグミルク石井副社長

第75回日本酪農研究会風景

企業展示風景
雪印種苗商品をPR

「雪印種苗社長賞」を授与する笠松社長

雪印種苗笠松社長より
副賞の「名人和牛セット」を授与

研究発表演題・発表者・審査結果

1．耕畜連携を通じた、安心安全な我が家の経営：（宮崎県・都城）福留寛行
奨励賞

2．新牛舎で心機一転！　乳質改善と自家育成へのこだわり：（香川県・高松）赤松　勲
努力賞

3．わたしのおわりのはじまり～やらなきゃいけないことが見えてくる経営～：（青森県・県南）布施和昭
奨励賞

4．Good cows made from good grass：（北海道・釧路）大宮睦美
最優秀賞（黒澤賞）

5．牛にやさしく：（北海道・東根室）青木伸寿
優秀賞・太田賞

6．スマート酪農で次世代への継承を目指して：（北海道・興部）森田泰徳
改善賞

意見・事例発表演題・発表者・審査結果

1．経営改善の取り組みと今後について：（北海道・美瑛）真田雄司

2．酪農で町を盛り上げる：（岩手県・久慈）清水利月

3．限られた条件のなかでの最適解を求めて：（埼玉県・日野）松本陽一
最優秀賞（開催地協議会長賞）

4．酪農も「モノづくり」：（岡山県・勝央）小村拓矢

5．早田牧場にとって酪農とは：（長崎県・長崎）早田好秀

「雪たねニュース」廃刊のご案内

平素は、「雪たねニュース」をご愛読いただきまして、誠にありがとうございます。本誌は、お客様や関係機関の皆様への酪農畜産情勢を始め農業経営全般にわたる実用記事を提供する目的で、「牧草と園芸」の付録として1974年９月に創刊し、50年間発行を続けてまいりましたが、誠に勝手ながら次号（2025年３月号）をもって廃刊させていただくこととなりました。

今後は、当社ホームページや「牧草と園芸」などを通じ、皆様のお役に立つ情報を発信していきたいと存じております。引き続きこちらもご覧いただきます様お願い申し上げます。

最後になりますが、「雪たねニュース」をご支援いただいた皆様に心から御礼申し上げます。